

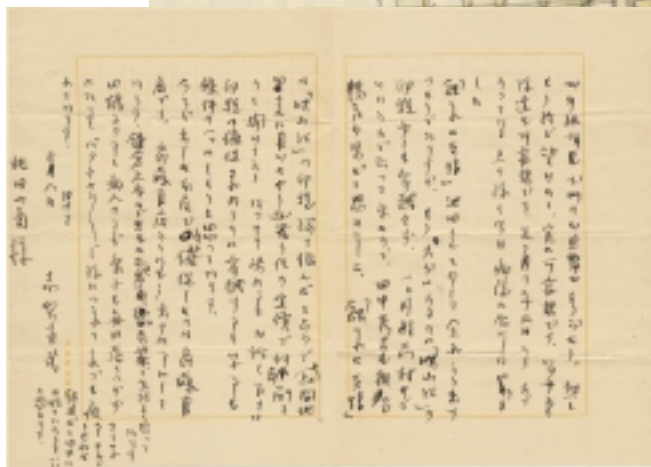
# Nara Women's University

2005 No.10

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 奈良女子大学附属図書館 公開日: 2008-07-11 キーワード (Ja): デジタルアーカイブ, 画像原文データベース, 自己修正機能, 池田小菊, 電子ジャーナル, 読書, 日本古代の図書館 キーワード (En): 作成者: 奈良女子大学附属図書館編集委員会 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10935/559">http://hdl.handle.net/10935/559</a>



# 図書館だより



16回図書展示『池田小菊展』より

池田小菊の住居(上)と、池田小菊に宛てた志賀直哉の直筆手紙(下)

<http://www.lib.nara-wu.ac.jp/koho/tenji.html> にて詳細を紹介

目次	次
日本古代の図書館 ..... 2	池田小菊展に寄せて ..... 6
自宅で電子ジャーナル ..... 3	デジタルアーカイブ その歴史と展望 7~8
読書は心の清涼剤 ..... 4	寄贈図書 ..... 9
自己修正機能を持つ科学 ..... 5	平成17年度図書館開館時間予定表 ..... 10

# 日本古代の図書館



館野 和 己

わが国初の私設図書館として伝えられているのは、平城京にあった奈良時代の石上宅嗣の芸亭である。宅嗣は最後は大納言にまで昇った政治家だが、文人としても聞こえた人物である。彼は旧宅を喜捨して阿闍寺とし、その一隅に外典（仏教以外の書）の院を置き、芸亭と名づけた。そして閲覧したいという好学の徒がいれば許したというから、公開図書館である（『続日本紀』天応元年6月辛亥条）。阿闍寺は法華寺の東南にあったと伝えられ、現在国道24号線沿いの一条高校の東脇に「芸亭伝承地」の看板が立っているが、正確な場所は明確でない。

この芸亭は、阿闍寺の中に建てられ、「内典（仏典）を助けむがために外書（外典のこと）を加え置」いたものであったから、阿闍寺には当然ながら内典を蓄えた書庫があったはずだ。

当時写経が盛んに行われたが、それには手本とするべき經典が必要となる。そこで手本となる經典を、所蔵している諸寺院や内裏などから借り出すということが、よく行われていた。正倉院には、そうした際に借り手と貸し出し側の間でやりとりされた文書が多数残されているし、木簡に書かれたものもある。

それは現代の図書館であれば、誰が何をいつ借りたかを書く図書カードにあたる。そして返却されれば、その日付が記されて、カードの役割は終わる。現在では電子的な処理に変わっている所が多かろうが、原理は同じである。

木簡から少し古代の図書館の様子を見てみよう。桜井市に山田寺跡がある。大化の改新政府で右大臣となった蘇我倉山田石川麻呂の創建した寺で、興福寺に残るその仏頭が有名である。1990年に奈良文化財研究所によって行われた発掘調査で、長大な木簡が出土した。一部欠損しているが、現存する高さは10.7cm、幅121.5cmときわめて横に長い板の表裏両面に、多くの文字がいくつかのグループに分かれて書かれている。読めない文字も多いが、各グループ

は經典名と年月日、山田寺の役僧の署名から構成されていることが多いようだ。中には周りを墨線で囲んでいるグループもある。書かれた年号には、読めるところでは天平勝宝4(752)・6・8年と宝龜7(776)年があり、随分幅がある。

これらは經典の貸し出し簿で、それが墨線で囲まれているのは、經典が返却されたことを意味する印とも考えられよう。大きなものであるから、經典の収蔵庫の壁などに取り付けていたのであろう。そして木簡には表面を削り取った跡や、削り残りの文字もあり、残った日付からしても、長期にわたって經典の貸し出しの記録をその都度この木簡に書き続け、不用になった部分は削って消し、その上に新たに書き足していったようである。基本的に今の図書館と同じ出納の仕組みが、奈良時代から既に行われていたのである。人間の考えることは、時代が変わってもそう大きくは変わらないのである。

ところで法隆寺金堂の本尊である釈迦三尊像の台座の部材から、7世紀はじめ頃の墨書が見つまっているが、その中に「書屋」という文字があった。この墨書は厩戸皇子（聖徳太子）の上宮王家に関わる可能性があるが、書屋は書籍を収蔵した建物、すなわち書庫のことであろう。厩戸皇子・山背大兄父子も利用した図書室と想像することも可能かもしれない。そこではどのような出納事務が行われていたのか、想像がふくらむところである。

## 推薦図書

東野治之『正倉院文書と木簡の研究』

（塙書房 1977年）

大庭脩編著『木簡 [ 古代からのメッセージ ]』

（大修館書店 1998年）

木簡学会編『日本古代木簡集成』

（東京大学出版会 2003年）

（文学部教授）

# 自宅で電子ジャーナル

新出 尚之



便利な世の中になったものだ。インターネットをはじめとするコンピュータとネットワークの発達と高性能化で、今や大学構内にいても自宅にいても、世界中の情報にアクセスできる。そのうち、物理的に職場にいなければできない仕事を除いては、わざわざ職場に出向いて働くのは無能の証、というような時代すら来るかも知れない。

さて、そうしたネットワークの便利さを享受できるサービスの1つとして、本学図書館には電子ジャーナルがあるのは周知のことであろう。厳しい予算状況の下、このサービスも継続の可否の岐路に立たされているのだが、学術の発展のためにも今後も長く利用できて欲しいと願っている。

このサービス、当然ながら利用は学内からのアクセスに限られている。とはいえ、自宅での仕事や学習において、これだけ便利なサービスが利用できないのでは、かなりの支障と言えよう。

しかし実は、電子ジャーナルの自宅からの利用は可能である。筆者は実際に利用している。では、どうすればできるだろうか。

一番話が速いのは、自宅と学内に自分が管理できるUNIX系OSのマシンがある場合である。この場合、自宅のマシンから学内のマシンにリモートログインし、学内マシン側でMozillaやNetscapeといったWebブラウザを起動して図書館のWebページにアクセスし、そのWebブラウザのウィンドウを自宅マシン側に表示させればよい。これなら、電子ジャーナルには学内からアクセスしていることになるから、全く問題なく利用可能だ。ただ、自宅から学内への接続がブロードバンドでないと、速度的には苦しい。

筆者も、自宅のLinuxマシンから、研究室のLinuxマシン `azusa.ics.nara-wu.ac.jp` を介しての利用である。具体的には、自宅マシンのXウィンドウシステムの画面で、端末ウィンドウからOpenSSHを用いて、`ssh -Y azusa.ics.nara-wu.ac.jp` として (OpenSSHがバージョン3.7.1以前の場合 `ssh -X` とする) 研究室マシンに入り、そこでmozilla としてMozillaを起動する<sup>1</sup>。

このために必要な条件は、研究室側マシンでOpenSSHのサーバsshdが動いていて、X11 forward-

ingを許可する設定になっており、かつ学外からアクセスできることである。本学では総合情報処理センターのファイアウォールがあるので、同センターにあらかじめそのマシンのsshのポートを開放するよう申請しておかないと、学外からsshでのアクセスができないことに注意。

もちろん、学内側に自分の管理できるUNIXマシンがなくても、上記の条件を満たすUNIXマシンに自分がアカウントを持っていれば、同じことができる。例えば情報科学科の学生の場合、教育用計算機システムのリモートログインサーバremote01が条件を満たしている。自宅側にもUNIXマシンが必要だが、情報科学科の学生ならば、自分のパソコンにLinuxを入れるくらいのことはできて欲しい。

総合情報処理センターのアカウントを持っていればどうだろうか。現在のところ同センターには、上記の条件を満たすUNIXマシンは、筆者の知る限りなさそうだ。従って、この方法は残念ながら困難ということになる。hellenやartemisなどに学外からsshで入って電子ジャーナルを利用できればユーザにも便利だろうと思うのだが...

さてそれ以外の実現法は、筆者は未経験につきよく知らない。Windowsだと、VNCによるリモートデスクトップの利用、あるいはOSの種類によらず、VPNソフトで自宅と学内マシン間に仮想プライベートネットワークを構築する手、などが可能かも知れない。また、lynxのようなテキストブラウザを用いる手段もある。これなら、リモートログインさえできればテキスト端末で十分だ。

ともあれ、ネットワークは人を空間的な制約から解放してくれる道具である。居ながらにして数々の文献が利用できる電子ジャーナルのサービスが、今後とも有効活用されること、ひいては図書館の利用促進に、本稿が役に立てば幸いである。

推薦図書 本文とは直接関係ないが、「プログラミング言語AWK」(エイホ他、足立訳、新紀元社)はデータ処理の教科書として興味深く、おすすめしたい。また「[改訂第3版]L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X2 美文書作成入門」(奥村、技術評論社)も理系分野の文章書きには有用な1冊だろう。(理学部講師)

<sup>1</sup>この場合、自宅マシンで既にMozilla (Netscapeを含む。以下同様) が起動していると、研究室マシンでMozillaを起動しても自宅マシン側のものとして起動してしまうようだ。自宅マシンのMozillaを停止してから研究室マシンのMozillaを起動する必要がある。

## 読書は心の清涼剤



才 脇 直 樹

図書館だよりに自分の好きな本や読んだ本の紹介を書いてくれないか、との依頼を受けて一瞬ためらった。文系の先生方はもとより、その道のプロが揃っておられる中でおこがましすぎるし、そもそも専門分野の話では広く関心を持っていただけるとは限らない。が、生真面目に研究関連で攻めても良いが、読み物なんだから一般書籍に絡めて日々感じることを書いてもらってはどうか、という一言で引き受けることにした。

私は五代前からの大阪人であるが、キタや道頓堀の華やかさとはほとんど無縁の人間である。大半の家族が江戸時代以前より居住している、狐狸とご近所づきあいの山村にあったサイノワキという家に、幕末に京都よりまだ幼児だった高祖父が泣く泣く里子になって以来、晴耕雨読な日々を送ってきた。子孫としては、そろそろ茅葺民家の耐久性が気にかかる頃である。色々考え出すと、他郷における間取りや構造にも興味がわく。そんな時、**<日本の民家：今和次郎著、岩波文庫>**に出会って、日本各地様々な年代の民家や地方史について学びきっかけとなった。

雨がしのげる事に一安心すると、今度は農村の台所事情に関心が移る。土地の古老たちは時々、前の戦争では明智家に召集されて鉄砲かついで農耕馬に鞭打って兵糧持参で出かけたそう、などとのたまうが、果たして当時の経済・政治事情はどうだったのか。良くある歴史モノでは、江戸時代後期の武家社会を近代の視点で理想・普遍化したモデルを戦国以前にも当てはめて書く傾向があるように思うが、形式的にはそう見えても実生活ではそうじゃあるまい、とつつこみを入れたくなることも少なくない。その点、**<武士の家計簿：磯田道史、新潮新書>**は生活実感とピッタリあった分析が鮮やかで、心のもやもやを晴らしてくれた。

さて、こんな環境ではよその国の中世にも自然と関心が向くようになってしまう。三国志などは吉川版演義に始まって中国古典大系の正史に進む人が多いのだろうが、勝ち負けはわかっても社会構造の変化がとんと腑に落ちないから比較のしようがない。ある友人など、実は本当の三国志は戦乱で失われたんだよ、と微笑みながら三国旧記<反三国志：周大荒、

講談社文庫>を勧める始末である。今で言う歴史シミュレーション小説の走り、蜀漢が中原を克復する所がファンにとっては醍醐味なのだろうが、あまりに都合が良すぎる展開で三国志というよりは水滸伝のようだ。著述された当時の、中華民国建国から北伐への興奮が魏討伐と重なって伝わってくる気はするが、本当に面白いのは五胡十六国とか五代だろうと思いつつ原典にあたることできない自分にとっては、**<大唐帝国：宮崎市定、河出書房新社>**の方が楽しめた。

中国の歴史モノといえば田中芳樹を抜きにして語ることはできまい、と思うのであるが、彼の代表作はやはり**<銀河英雄伝説：田中芳樹、徳間書店>**というスペースオペラに尽きる、というのが大方のファンの見方である。小説を読みながら独特の歴史観や人間観に浸れるという意味では塩野七生に引けをとらず、この大作の前では、**<銀河帝国の興亡：アイザック・アシモフ、創元推理文庫>**も霞んでしまう。しかし、田中流の近代知性的な歴史観より、文明の精華は秘かに農村で守られやがて再興される、というアシモフ流のちょっと俗っぽい貴種流離譚的プロットに共感するのが田舎人だろうとも思う。隣村の隠れキリシタン達はそのような願いを胸に抱いてマリア十五玄義図を奉じ、徳川300年を乗り切ったのだから。平家の落ち武者伝説といい、王朝の交代こそなかったものの、いやだからこそ、日本のここかしこにそういった滅ぼされし者へのロマンあるいはオマージュが埋もれているように感じられるのだ。

人間の心理を扱ったSFとしては、最近リメイクされた**<SOLARIS：スタニスワフ・レム、ハヤカワ文庫>**も根本的に異なった生命体同士のすれ違う悲劇を描いた名作である。ハイテクCG全開のハリウッド映画版よりも30年前のタルコフスキー監督の古典的映像の美しさに魅かれる私は、常に、自分達のメディア技術に関する研究が真に人間の五感の豊かさに新しい地平を提供しえているだろうか、などと悩む。科学技術と芸術文化、都会と農村、すれ違いだけでは終わりたくないものである。

(生活環境学部 助教授)

## 自己修正機能を持つ科学

加藤 昌子



大学の図書館へ新着の学術雑誌を見に行ったりしたのは、すでに10年前のことだろうか。最近、学術雑誌もたいてい電子化され、図書館へ直接出向く回数もずいぶん減った。近頃私が図書館へ行く目的の第一は、他機関へ依頼した文献のコピーを取りに行くこととなっている。

そのほか図書館と名の付くところとして、たまに奈良市立図書館へ行く。家から比較的近いという理由もあり、子供が小さいときには定期的に本を借りに通っていた。先日久しぶりに行く機会があった。一般科学の棚を物色するのが好きで、科学の重要な発見にまつわる逸話を紹介した本や、科学者に関する研究本、「なぜ何々はどうなのか」といったようななぜなぜ本など、題名を見ていると面白そうな本がいろいろ並んでいる。この種の本は、お金を出してまで読む気にはならない(すみません)が、図書館では何と云ってもただで借りられるのがよい。読む時間が無いのについ何冊も借りてしまう。

私の図書館との関わりはこんなものなので、残りの紙面は前述の借りて読んだ本の中から、「私たちはなぜ科学にだまされるのか」(ロバート・L・パーク)を紹介することにする。この本の著者は、アメリカ物理学会ワシントン事務所長も勤めるメリーランド大学教授で、世の中に害を及ぼすインチキ科学を糾弾する論客として知られているようだ。彼は、世の中にはびこるインチキ科学をブードゥー・サイエンスと名づけて、それらを3つに分類している。第1は、世紀の大発明、科学的に裏付けられた大成果などと一般人に宣伝して金儲けを企む「ニセ科学」、「詐欺科学」で、外部からエネルギー補給のいらぬ「エネルギーマシン」や、毒にも薬にもならないニセ薬(ブラシーボ効果があるとしても金儲けの材料にされては社会的に害がある)など例に事欠かない。第2は、不十分な、あるいは故意に抽出した科学的データに基づいて理論をでっち上げて訴訟を起こす

「ジャンク科学」で、訴訟大国のアメリカならではの感じられる分類である。例として、送電線の電磁場が小児白血病の原因であると主張する電磁場訴訟の顛末が記されている。多大な労力と費用をかけて調査された結果、電磁場と病気はまったく無関係で、わずかに見られる因果関係は、送電線そのものではなく、送電線の近辺は低所得者層地域であるという事実と関係するかもれないという結論であった。ある事象に対する科学的因果関係を明らかにすることの困難さは、いわゆる環境問題などにも付きまとうもので、門外漢あるいは一般人の立場では何が真実かの見極めは難しく、軽々に判断できないとはいつも感じることである。そして第3は、科学者が自分自身をだます、つまり自分の誤りを認められなくなった科学者が陥る「病的科学」である。例として挙げられている常温核融合は、単なる不十分な誤った実験結果に他ならなかったことを、人間の様々な欲が大騒動に発展させた典型例である。

本書の目的は、世の中にはびこるこのようなインチキ科学に惑わされないようにとの警告であるが、私が一番印象に残ったのは、「科学」と「ものごとを知るほかの方法」とを区別するものは、正当な科学のもつ自己修正機能であるという一節である。科学に間違いはつきものであるが、検証を重ねて間違いはどんどん修正されるのである。絶対的なものは魅力的で安心できるかもしれないが、若い人が簡単にはまってはいけない。間違いを自己修正していく科学のほうが信頼できると感じるほうが健全ではないだろうか。

< 推薦図書 >

ロバート・L・パーク「私たちはなぜ科学にだまされるのか」主婦の友社

(人間文化研究科助教授)

## 池田小菊展に寄せて



弦 卷 克 二

展示場で配布のパンフレットにも記してある通り「この展示は、作家であり池田小菊の研究者でもある武田好昭氏（筆名 生田幸平、生駒市在住）から平成十六年七月に本学附属図書館が保管を依頼された池田小菊関係の資料の一部を紹介」するものである。本学に隣接する鍋屋町三番地に住んで、奈良女子高等師範学校附属小学校の訓導から、大正十五年志賀直哉に師事して小説家に転身、戦後は戦禍を免れた奈良を日本文化復興の基点にすべく、志賀直哉と交流のあった東大寺の僧・上司海雲らと雑誌『天平』を創刊、また、昭和二十三年からは奈良県婦人協議会の初代委員長として『婦人奈良』を編集し、昭和二十六年の婦人会館落成に尽力した池田小菊（1892～1967）は、教育者・作家・婦人活動家の三つの顔をもつ魅力的な女性である。

今回の展示では、スペースの関係で附属小学校時代（1921～1928）の業績として『合科学習の仕方による算術問題の作り方・解き方』のみが展示されているが、パーカーストのダルトン・プラン実践の記録としては『私の教育記録』『私の国語教育』他多くの原稿類も寄贈されている。教育史の観点でいえば、奈良女子大学画像原文データベースにも載る「学習研究」復刊5号の「私の教員時代」という彼女の文章「私は前に創作「鳩」（小林秀雄の推薦で昭和十一年八月「文学界」に発表 筆者注）の中の女主人公お淳といふ人物について「お淳が教員をしたあひだは、一口にいへば個性教育全盛時代であつた。それもお淳はダルトン・プランの研究に招かれて女高師の附属に来たので、これは東京の成城よりか早く、日本でこれを実地にとり入れた最初の教室はお淳の教室であつた。」と書きましたが、これは私自身のことで、事実もこのとおりでございます。」は、恰好の研究対象となるであろう。

作家としての出発は、大正九年の『僕には娶る妻がない』、大正十四年に大阪・東京両「朝日新聞」に連載された『歸る日』が、志賀直哉に師事する前

にあつたが、師事後は昭和十三年十一月「文学界」に発表し「奈良」という作品が第八回芥川賞候補に、太平洋戦争下には網野菊、中里恒子、壺井栄、窪川（佐多）稲子らと共に全国書房刊行の女流作家叢書に『来年の春』、戦後には、『東大寺物語・愛と死』などがある。展示では、志賀直哉・網野菊らとの交流を示す書簡も出されているが、自筆の書簡を丁寧に読むと、例えば昭和二十二年五月八日付の志賀書簡が、『志賀直哉全集』で誤って翻字されていることも見えてくる。大量に寄贈された原稿類を調査することで、戦中の言論統制の実状、或いは小菊文学の成立過程などが見えてくると考えられる。

戦後の民主婦人活動に関しても、『婦人奈良』の精査や、婦人会館建設に纏わる奥田良三知事との確執等を分析することで、戦後の女性史・地方政治史の一面が具体的に明らかになるのではないかと。

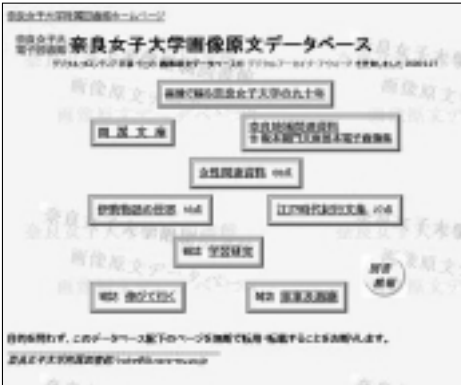
本学に縁ある池田小菊の資料を提供された武田好昭氏は、小菊に師事して小説修行をし、生涯独身を通した小菊が養女の一枝を喪った後、養子になることを依頼された人でもある。養子縁組は実現しなかったが、その武田氏がつけられた池田小菊研究の道を発展させることは、本学の務めでもあろう（尚、本紙の表紙絵は武田氏のもの）。未定稿の整理・執筆年代の確定や、小菊関係のさらなる資料収集は勿論、志賀直哉が奈良に住んだ時代やそこに集まった文学者や画家、また「天平」に関わった人々や婦人会活動に携わった人々、或いは小菊に接して影響を受けた本学の先輩達を総合的に研究するには、武田氏の資料提供をうけた今が、最後のチャンスではないかと思う。まるで探偵のように、網野菊や瀧井孝作、武者小路や阪中正夫、森敦の貸家の位置を探しながら、七十年を遡行する難しさを実感している。

小菊を知る先輩方にご協力をお願いする次第。

（文学部教授）

# 奈良女子大学画像原文データベース デジタルアーカイブ - その歴史と展望 -

<http://www.lib.nara-wu.ac.jp/nwugdb/>



百聞は一見にしかず！ 上記の URL にアクセスして、実際の画像をご覧になりながらこの文章を読んでいただくと、より楽しんでいただけるかと思います。

奈良女子大学では、1996年度から画像原文データベースの作成に取り組んできました。当初は本学が所蔵している資料をスキャナで読み込み、デジタル画像化を行うという簡便かつ費用のかからない方法で始められました。その第1作目が『新編繪入伊勢物語』です。

この『新編繪入伊勢物語』というのは、文は吉井勇、挿絵は竹久夢二が手がけており、『伊勢物語』の舞台を大正時代



の有情の世界に移しかえた、いかにも夢二らしい雰囲気がかもし出されています。

『新編繪入伊勢物語』をきっかけにして、本学が所蔵する伊勢物語16点をデジタル画像化した『伊勢物語の世界』が形成されていきました。

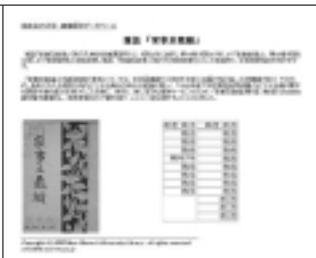
次に手がけられたのが、『江戸時代紀行文集』です。これは、文学部が近世紀行文学を題材とした国文学演習を開催したのをきっかけに、



当館が所蔵する27点の江戸期紀行文のデジタル画像化を行い、演習の中で作成された翻刻文、解説文などをデジタル画像と合体させてデータベース化したものです。

本学において、授業にデジタル画像を使用した最初の事例であったのではないかと思います。

それ以来、画像データベース化は拍車がかかったように次々と推進されていきました。『伊勢物語の世界』と『江戸時代紀行文集』は、教官が主体となってデジタル画像化を行いましたが、図書館員が自主的に選択した資料もデジタル画像化が行われるようになりました。『伸びて行く』は奈良女子高等師範学校附属小学校が教育研究発表の一つの場として刊行された雑誌であり、『家事及裁縫』は全国にも所蔵が無いため、出版元の了承を得てデジタル画像化を行って公開している資料です。



『伸びて行く』のトップページ

『家事及裁縫』のトップページ

さて、奈良女子大学には国宝級の資料も無ければ、デジタル画像化を行って公開するほどの資料も数が知れています。そこでデジタル画像化の目は、学内から学外へと向けられました。大学を一步出れば、そこには歴史の地、古都奈良が広がっています。奈良に点在する寺社が所有している国宝級の貴重な資料を、デジタル画像化することによって公開できないだろうかという方向へ進みだしました。

下は談山神社の『多武峯縁起絵巻』







『春日権現験記絵巻』

『生駒山寶山寺縁起』

『三輪山縁起』

『元興寺極楽坊縁起絵巻』



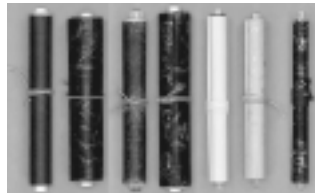
本学が所蔵している『春日権現験記絵巻』のデジタル画像化を皮切りに、1996年度に組織された資料デジタル化のためのプロジェクトチームは、当初からの構想であった『奈良地域関連資料画像データベース』を推進しました。チームのメンバーに、元興寺文化財研究所の研究員に加わっていただき、その研究員のご尽力により、『生駒山寶山寺縁起』、『三輪山縁起』、『元興寺極楽坊縁起絵巻』の3点の学外資料が画像データベースとして公開することができました。『奈良地域関連資料画像データベース』は、4点の絵巻からスタートしたのでした。

絵巻を主体とした『奈良地域関連資料画像データベース』がスタートした頃、奈良県吉野郡にある財団法人阪本龍門文庫が、豊富に所蔵している貴重資料の画像公開を計画され、先に画像データベースを公開している本学にそのノウハウを尋ねてこられました。それを契機として、阪本龍門文庫がデジタル画像化を行い、附属図書館のサーバで公開するという共同の画像データベース作成公開事業が始まりました。

こうして、『奈良地域関連資料画像データベース』に新たな一頁が追加されることになり、当初は重要文化財である『花鳥餘情』を含む5点で公開された阪本龍門文庫の収蔵品も、今では57点を公開するに至りました。その中には、北原白秋や芥川龍之介の自筆原稿なども含まれています。阪本龍門文庫からは、今後も引き続き画像の提供をお約束いただいております。



奈良地域の社寺・機関のご協力により、『奈良地域関連資料画像データベース』も着々とその点数を増やすことができました。生駒山寶山寺からは、その後も続々と貴重資料の提供をいただきまして、現在では42点を公開させていただいております。その中には、普段では絶対に見ることのできない世阿弥自筆の能本や、柳生但馬署名入りの『新陰流免許状』などが含まれております。



寶山寺・兵法書の巻物の数々

2003、2004年度と、『地域貢献特別支援事業費』の配分を受けて、奈良県教育委員会文化財保存課の協力の元に、談山神社所蔵の『多武峯縁起絵巻』(頁下図)と『新陰流免許状』を含む、生駒山寶山寺所蔵の『寶山寺・兵法書』の画像を公開することができました。

今後も『奈良地域関連資料画像データベース』では、奈良県教育委員会文化財保存課と、県内の社寺・機関のご協力を仰ぎまして、新たな貴重資料を公開していくと共に、新たな技術で、より鮮明に、より見易い機能を充実させて画像を公開していく予定です。

高精細画像でお届けする画像は、肉眼では確認できない部分でも、拡大表示することで鮮明に細部まで再現しております。

『奈良地域関連資料画像データベース』では、ここで紹介しきれなかった数々の貴重資料を公開しております。インターネットにアクセスする機会がありましたら、是非とも『奈良女子大学画像原文データベース』並びに『奈良地域関連資料画像データベース』にお立ち寄りくださいますようお願い申し上げます。

(電子情報係長 渡 勝弥)



今回も学内外の多くの方からご寄贈いただきました。記して御礼申し上げます。(順不同・敬称略)

(平成16年1月～12月受入分)

本学元教員寄贈図書

江刺 正吾	観光のまなざし：現代社会におけるレジャーと旅行 / ジョン・アーリ著；加太宏邦訳 ほか856冊
近藤 公夫	映像による日本植物誌：PPH (プラントフォトハンティング) - 花博記念協会、[200 - ]ほか2冊
横山 弘	Oxford advanced learner's English-Chinese dictionary = 牛津現代高級英漢双解辞典 / A. S. Hornby ; : pbk., : hard. - 3rd.ed.(simplified characters) . - 商務印書館, 1988. ほか173冊
山本 公弘	栄養を知って糖尿病がわかる / 山本公弘著. - 東山書房, 2004 7. -(子どものための生活習慣病を防ぐ生活と食事; 1) . ほか3冊

本学教員寄贈図書

井口 洋	芸能の科学 / 東京国立文化財研究所芸能部編; 30. - 東京国立文化財研究所. ほか1冊
井上 容子	奈良県都市計画区域マスタープラン概要：大和都市計画区域の整備、開発及び保全の方針 吉野三町都市計画区域の整備、開発及び保全の方針 ほか6冊
上野 邦一	森林と私たちのこれから：東アジアの中の日本 / 樹恩ネットワーク [編]. - 樹恩ネットワーク, [2003]. ほか34冊
見目 正克	わが奄美：奄美随想 / 長田須磨著. - 海風社, 2004.10. - (南島叢書; 85)
小城 勝相	Free radical biology & medicine 36 (11-12), 37 (1-6) 8冊
才脇 直樹	感性情報学：感じる・楽しむ・創り出す：感性的ヒューマンインタフェース最前線 / 原島博 監修：井口征監修：工作舎取材・編集：乾敏郎 [ほか著]
住環境学講座	第23回国際造園会議日本大会(1985年)記念・八幡屋公園基本計画設計競技作品集 / 大阪市公園協会編. - 大阪市公園協会, 1985.4. ほか123冊 Le Corbusier : la Cappella di Ronchamp / di Carlo Cresti. - Sadea/Sansoni Ed., 1965. - (Forma e colore : i grandi cicli dell'arte; 58) . ほか22冊
生活経営福祉学講座	Income inequality : trends and international comparisons / edited by John R. Moroney. - Lexington Books, c1979. ほか9冊
食物科学講座	Proceedings of the 4. International Symposium on Genetics of Industrial Microorganisms, 1982 / Ed. by Yohnosuke Ikeda and Teruhiko Beppu. - Kodansha, [1983]. ほか32冊
生物科学科	農業と環境 / 久馬一剛、祖田修編著. - 富民協会, 1995 6. ほか58冊
比較歴史社会学講座	Die Gewerkschaften in der Endphase der Republik 1930 - 1933 / bearbeitet von Peter Jahn ; unter Mitarbeit von Detlev Brunner. - Bund-Verlag, c1988. - (Quellen zur Geschichte der deutschen Gewerkschaftsbewegung im 20. Jahrhundert ; Bd. 4)
松尾 良樹	われよりほかに：谷崎潤一郎最後の十二年 / 伊吹和子著. - 講談社, 1994 2. ほか2冊
的場 輝佳	実験室におけるエレクトロニクス / L.F.Phillips 著；古賀正三訳. - 東京化学同人, 1968.10.
井上 裕正	清代アヘン政策史の研究 / 井上裕正著. - 京都大学学術出版会, 1994 2 - (東洋史研究叢刊; 63 (新装版1))
横山 茂雄	奈良女子大学大学院人間文化研究科学術交流センター「南方熊楠の学際的研究」プロジェクト報告書 / 研究代表横山茂雄 - 奈良女子大学人間文化研究科, 2004 3. ほか2冊
加茂 祐子	生活経済学視点によるグローバル・イシューへのファースト・アプローチ / 加茂祐子編集. - 奈良女子大学生生活経済研究会, 2004 7.
岩崎 雅美	中国・シルクロードの女性と生活 / 岩崎雅美編. - 東方出版, 2004 8. ほか2冊
久米 健次	華梅談服飾文化 = Huamei's Essais on Dress and Adornments / [華梅著] - 天津人民美術出版社, 2001. ほか4冊
瀬渡 章子	安全な都市：計画・設計・管理の指針 / ガーダ・R・ウェカール、キャロリン・ホイットマン著；瀬渡章子、樋村恭一訳. - 都市防犯研究センター, 2003 3.
清水 新二	アルコール関連問題の社会病理学的研究：文化・臨床・政策 / 清水新二著. - ミネルヴァ書房, 2003 2. ほか2冊
池原 健二	自然学：自然の「共生循環」を考える / 藤原昇、池原健二、磯辺ゆう著. - 東海大学出版会, 2004.11. Cell 112 - 114 27冊
渡辺 和行	ヴィシー時代のフランス：対独協力と国民革命1940 - 1944 / ロバート・O. パクストン著；渡辺和行訳；剣持久木訳. - 柏書房, 2004 7. -(パルマケイア叢書; 18)
落合 豊行	グラフ理論入門：平面グラフへの応用 / 落合豊行著 - 日本評論社, 2004 2. ほか2冊

## 平成 17 年度 図書館開館時間予定表

4 月	日	月	火	水	木	金	土
						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30

10 月	日	月	火	水	木	金	土
							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					

5 月	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

11 月	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30			

6 月	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30		

12 月	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31

7 月	日	月	火	水	木	金	土
						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31						

1 月	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

8 月	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

2 月	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28				

9 月	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	

3 月	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

- は休館
- は10:00～17:00
- は9:00～21:00
- は13:00～17:00
- は9:00～17:00

臨時休館又は開館時間を変更する場合は、  
その都度図書館掲示板に掲示します。

### 図書館だより No.10

発行日 平成17年2月28日  
 奈良女子大学附属図書館報編集委員会  
 〒630-8506 奈良市北魚屋西町  
 Tel 0742 (20) 3249  
 ホームページ <http://www.lib.nara-wu.ac.jp/>